

私の妊娠大変記

野田深雪

「今日も1日、あっという間だった……」。そう思って眠りにつく。子供が2人になって半年、毎日がとても忙しい。私はだいたい寝つきが悪い。小さい頃から布団に入っても30分以上は起きていて、よく時計の鳴る音を聞いていた。だが、今は違う。2粒の睡眠薬のおかげでスーッと心地よく眠りにつけるのである。1粒は2歳半の長男・圭吾、もう1粒は5か月になる長女・紀恵だ。私が紀恵の妊娠に気付いたのはちょうど1年前だった。

まさか!?!の入院

「2人目ができたかな? そういえば生理も1週間以上遅れているし……。よし、まずは検査してみよう」と、私は急いで近くの薬局に検査薬を買いに行った。結果は陽性。「やった!! 妊娠だ!」圭吾のときもそうだったが、この判定薬での検査で陽性が出たときは、飛び上がるほど嬉しい。病院のエコー検査でも、ちゃんと子宮内にGSを確認。「今回は順調に育ってくれよ」と思いながら、病院を後にした。

その半年前、私は流産をした。処置後、スタッフの前では気丈にしていたものの、さすがに主人が迎えにきてくれた車の中では大泣きした。悲しくて、悲しくてたまらなかった……。

そんなこともあって、今回の妊娠は本当に嬉しかった。

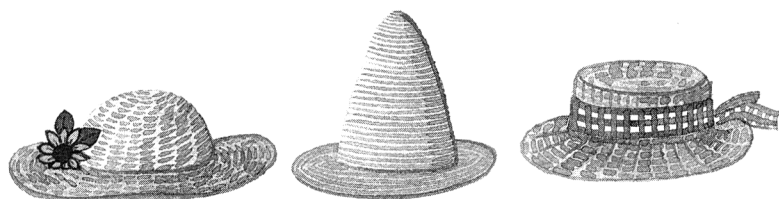
妊娠確認後より、下腹部の重たい感じが続いていた。しかしエコーで見るとGSは大きくなっていき、心拍もはっきりと見えるようになっていた。「とりあえず、安静にしておくように」という

ことで、実家に1か月間、圭吾と2人で世話になった。そして妊娠8週頃、自宅に帰ってきたが、次の日に中等量の出血。今度は絶対安静となり、またすぐ実家へ連れ戻される。圭吾がいるので絶対安静とはいかなかったが、布団を敷きっぱなしで、寝たり起きたりの生活が続いた。

そして妊娠13週頃、再び大出血。病院に受診し、診察台に乗ろうとするが、乗ることが困難なほど多量の出血だった。エコーでは胎児の心拍を確認できたのでホッと一安心。そのまま入院という形になった。入院当初は何の出血かわからなかったが、3日後のエコーで、子宮内に血腫を発見。これが、今回の大出血の原因だった。入院は思ったよりも長く、42日間もかかった。入院直後は絶対安静のため、フォーリー挿入、止血剤の点滴、3週間後には腹筋がでてきたため、ウテメリンの持続点滴と、ありとあらゆる処置をした。そして、紀恵の命は助かった。

たくさんの人々に支えられて

42日間、圭吾は私の両親に預けられたままだった。1歳半で、急に母親と別れて寂しいだろうなと思ったが、私の心配をよそに、とてもいい子にしてくれていたようだ。毎日見舞いにも来てくれた。圭吾は、病室の入り口で、私と目が合うとニコッと笑ってくれる。その笑顔に私は毎日救われていた。20~30分、ベッドの上で私と遊んだ後は、「バイバイ」と言い、ぐずることなく帰ってくれた。それがとても嬉しいようでもあり、寂しいようでもあり……。毎日、とても複雑な思い



hat. Toshiko. O

で見送っていた。病院という異様な場所で、点滴につながれた母を見て、何か感じとっていたのかな。1歳半の言葉もまだはっきり出せない、何を言ってもわからない子供だと思っていたが、そうではなかった。圭吾は圭吾なりに、ちゃんとわかってきていたのだ。

しかし、一番大変だったのは私の両親だっただろう。今まで一緒に暮らしていなかった孫の面倒を急に見なければならなかったのだ。とにかく、怪我だけはさせないように気を遣ったと話してくれた。「1日中、孫に振り回されて大変なのに、体重だけは減らない」とボヤいていた母。「まあ一車でどっかに連れていけてかー」と少々怒り気味に言いながらも、圭吾をいつも遊びに連れて行ってくれていた父。両親には感謝の念で一杯だ。そして、9か月もの間、週末は片道2時間もかけて会いに来てくれた私の主人。遠くで見守ってくれていた主人の両親。その他大勢の人に支えられて、今年2月20日、無事、紀恵を出産した。

入院して感じたこと

助産婦として働いていた頃は、自分が患者になるなんて思ってもみなかったが、患者の立場になって、初めてわかることがたくさんあり、働いていた頃の自分を深く反省した。切迫流産についての知識は、十分知っている私でも、患者となるととても心細かったし、不安だった。ゆっくりと話を聞いてほしいと思うこともあったが、ベッドサイドに忙しく来ては去っていくスタッフが多かった。「私もこうだったな、もっとゆっくりとした

態度で少しでもいいから話を聞けば、楽になる患者さんもたくさんいたろうに」と、心が痛んだ。

そしてもう1つ、患者は何事もよく見ているということ。「今日のあの人の化粧は濃い」だの「最近、太った」だの、「〇〇ドクターのズボンは、1週間同じチェック柄」だの、皆よく観察しているなあと感心した(後には、私もいっしょになって話に加わっていた……)。私もこんなふうに言われていたんだろうなあ。「足音がうるさい」だの、「落ち着きがない」だの……反省、反省。現役の助産婦さん、思いあたることありませんか？

大好きな子供達へ

2人の子供の寝顔を見ていると、幸せだなと思う。やっぱり自分の子供が一番かわいい。圭吾は、2歳1か月でお兄ちゃんになったが紀恵を本当によくかわいがってくれる。朝起きたら一番に「赤ちゃん、おはよう」と言って、ぐっすり眠っている紀恵の頭をなでなでしてくれる。私が家事をしていて、少しでも紀恵が泣くと、「赤ちゃん、泣いたヨ」と覚えはじめた片言の言葉で教えに来てくれる。優しいお兄ちゃんになってくれて、お母さんは本当に嬉しいです。私の大切な宝物たち、元気に育ってくれよ。私は消えない妊娠線とたるんだ下腹と引き替えに、あなた達をいただいたのだから……。

次は、助産婦学校の同級生の三浦喜美代さんを紹介します。2歳の女の子を育てながら、頑張っていていらっしゃいます。9月には第2子を出産予定です。どうぞよろしくお願いします。